

非常時を想定 地域の避難所運営に備える



11月15日(日)、筑紫南コミュニティ運営協議会主催の「避難所運営ゲーム(HUG・ハグ)」が筑紫南コミュニティセンターで行われ、約60人が参加しました。

この訓練は、災害発生時の避難所の運営方法を決めていくもので、避難者や事例などをカードで表示し、その配置や対応を避難所を想定した図面上で行います。

次々にカードが読み上げられ、多くの避難者を施設のどこに配置するか、また、支援物資の保管場所、喫煙所、ペットなど、さまざまな事例にどう対応するか。限られた時間の中での確な判断を求められます。

参加した皆さんは、「家族は同じ部屋にした方がいい」「高齢者は和室がいいのでは」など、話し合いながらカードを配置したり、図面に記入したりしていました。

終了後には、「実際の避難所は、もっと大変だと思うので体験できてよかった」「避難所として使う部屋は、事前に区画しておくなどの準備が必要」といった意見がありました。



筑紫野市フェイスブック
<https://www.facebook.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市ツイッター
<https://twitter.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市LINE公式アカウント
<https://lin.ee/6X9wMoy>